

テーマ：縄文文化について学ぶ（実践校）

石狩管内 千歳市立千歳第二小学校

本実践のポイント（概要）

- ・縄文文化に対する興味・関心を高め、ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間や特別活動において、縄文文化の特色について調べたり、ゲストティーチャーの講話を聞いたりするなど、縄文文化や自分たちの生活との関わりについて探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

「北海道・北東北の縄文遺跡群」の1つである、「キウス周堤墓群」を中心とした縄文文化を学ぶ活動を通して、縄文文化の特徴やキウス周堤墓群の構造を理解するとともに、学んだことを資料にまとめ、他者との対話による交流や発表を行うことにより、ふるさとに対する愛着や誇りをもつことができるようにする。

取組の様子

(1) 課題の設定

千歳市埋蔵文化財センターの職員やゲストティーチャーの講話、縄文文化に関連する書籍や資料、1人1台端末を活用して調べた内容から一人一人が縄文文化について課題を設定しました。

(2) 情報の収集

キウス周堤墓群や千歳市埋蔵文化財センター、修学旅行で訪問した北黄金貝塚の見学を通して情報を収集しました。

また、「学んでみよう～北海道の縄文遺跡～」や「遺跡の360度VRツアー」などのWebページの学習教材を活用することにより、児童が詳しく調べたいことについて情報を収集しました。

(3) 整理・分析

1人1台端末を活用し、収集した情報を整理するとともに、ICTを活用した交流を行い、同じ課題を設定した児童同士で交流・協議し、縄文文化の特色や自分たちの生活との関わりについて、理解を深めました。

(4) まとめ・表現

ICTを活用し、発表し合うことを通して、縄文文化についての理解を深めることができました。また、「世界遺産子どもサミット」において、他の学校の児童生徒の発表を聞くことにより、新たな課題をもち、探究的な学習を進めることができました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

自分が考えを広げたり深めたりすることができるよう、見学や体験で得た情報をもとに、縄文文化に関するテーマを各自で決め、プレゼンテーション用の資料を作成してまとめ、ICTを活用して交流したり、協議したりする場面を位置付けました。



【調べ学習の様子】



【世界遺産子どもサミットの様子】

実践の振り返り

- ・自ら課題を設定し、縄文文化について探究的に学習することを通して、興味・関心をもち、新たな課題を発見し、さらに探究する学習を進めたことにより、地域や縄文文化に対する興味・関心が高まるとともに、ふるさとに対する愛着や誇りを育むことができました。
- ・縄文文化についてだけでなく、現在の自分の生活と比較する学習を取り入れることにより、自分たちの住んでいる町や北海道への愛着や誇りをより一層育むことが期待できます。